

# □幼稚園児の負けず嫌い度と体力の関係を調査研究□

岐阜大学の春日晃章准教授はこのほど、負けず嫌いの幼児ほど、体力が高いという調査研究を公表した。幼稚園担任が負けず嫌いだと判断した幼児ほど、25m走や立ち幅跳び、ソフトボール投げといった種目で、そうでない幼児より記録が高かった。春日准教授によると、負けず嫌いかどうかは、外遊びの経験の多さにも関係があるという。幼稚園時代に外遊びを十分経験することが体力向上にもつながることを物語っている。

調査は岐阜・福井両県の5幼稚園（公立1、私立4）に通う1075人を対象に実施。3～5歳児について、「立ち幅跳び」「体支持持続時間」「長座体前屈」「25m走」「ソフトボール投げ」「反復横とび」「握力」を測定した。一方、幼児が負けず嫌いかどうかについては、担任教諭が5段階で評定。毎日の様子から、他人に負けることを嫌がるか、他人との比較ではなく自分ができるようになることにこだわるかどうかなどを判断し、「負けず嫌い群」、「どちらでもない群」、「non負けず嫌い群」の3群に分けた。

春日准教授は、体力・運動能力の測定結果から年齢差を取り除いてデータ化し、負けず嫌い度との相関を見た。その結果、ほぼ全ての種目で、負けず嫌い群、どちらでもない群、non負けず嫌い群、の順に記録が低くなっていた。特に、男児の立ち幅跳び、25m走、ソフトボール投げについては明確な差が生じていた。女児の反復横跳びや男児の体支持持続時間では、負けず嫌いと記録との関係は明確ではなかった。

この結果について春日准教授は、「負

けず嫌い」と体力に関係あるという結果がでたが、負けず嫌いかどうかは、外遊びの中で競争する経験を持つなど、外遊びの機会の多寡にも関係する。乳幼児期に外遊びが楽しいと思う経験をすることは大事で、幼稚園や保育所の先生はそうした経験をさせてもらいたいと思う」と話す。幼児の「負けたくない」という気持ちをうまく引き出して、外遊びに呼び込むなど、外遊びを好きにさせる支援が求められるようだ。

また、春日准教授は、文部科学省の「体力向上の基礎を培うための幼児期における実践活動の在り方に関する調査研究」にも携わっている。幼児の体力・運動能力に関するデータがないため、体格診断と体力・運動能力診断、体力バランス診断などを盛り込んだ幼児体力調査票を考案、基礎データを収集している。測定する体力・運動能力は前述の7種目。調査票では、個々の幼児の体力や体格が年々向上していく様子が分かるものとなっている。

保護者にも参加してもらった研究では、我が子には運動能力があると思っている保護者が、実際にデータをとってみると意外と高くないことに気づき、積極的に外遊びを推奨するようになったという調査結果も出ている。幼児の体力向上には、保護者の理解を得るのも重要なことが浮き彫りとなっている。

春日准教授が進める幼児の体力・運動能力の評価システムに関心のある方は、岐阜大学春日研究室まで（メールアドレスは、kasuga@gifu-u.ac.jp 直通電話は、058-293-2286）。